

Ida Bromley, M.C.S.P. 著

田口順子・他 訳 (神奈川県総合リハビリテーションセンター)

四肢麻痺と対麻痺のリハビリテーション (原著第2版)

中村 裕 (大分・中村病院)

最近、我が国で脊髄損傷のリハビリテーションに関する書物が数多く出版され、関係者の一人として喜んでいる。しかし何といっても、初療から社会復帰まで包括的治療の近代体系的をつくったのは英国の Stoke Mandeville 病院の創設者 Sir Ludwig Guttman である。私は1960年に初めて Stoke Mandeville 病院を訪れ、Guttman 教授の指導のもとに、国立脊髄損傷センターの第2病棟で勤務した。その後、パラリンピックの名称で有名な International Stoke Mandeville Game (Sir Ludwig Guttman の創始した車椅子使用者の国際スポーツ大会) の日本選手団長や国際パラプレジア医学会などの用務で十数回以上同センターを訪問している。傷病発生から社会復帰まで僅か6カ月でその85%を有給就職させる speedy Rehabilitation、褥創や尿路感染などを決しておこさない優秀なスタッフの行方特異な Postural Reduction、スポーツを取り入れたダイナミックなリハビリテーションなど、世界の脊髄損傷治療のメッカとして各国から多くの留学

生、見学生が訪れている。1980年、Sir Ludwig Guttman の突然の病死以後もその名声は衰えていない。本書の著者 Miss Bromley とは旧知の仲であり、私は多くの技術を教えていただいた。彼女は長い間 Guttman 教授のもとで理学療法部門の主任として多くの脊髄損傷患者の治療の実際にあたった熟練した PT である。また、身体障害者のスポーツ療法の権威者であり、病院のグラウンドではほとんど毎年国際大会の時に洋弓のフィールドキャプテンをしていた彼女の勇姿を思い出す。今はロンドンの Royal Free Hospital の PT の主任であり、英国 PT 協会の会長の要務についておられる。本書の訳者のお二人とも、私の旧知のまた尊敬している日本が誇れる国際的な PT である。田口順子女史は、私が第1回の英国留学から帰国して初めて別府国立病院につくったリハビリテーションセンターの最初からのスタッフであり、清瀬リハビリテーションセンターの第1回生として卒業し、現在、神奈川県総合リハビリテーションセンターの理学療法科の主

任として我が国の PT 界をリードする人となり、私の自慢できる同僚の一人である。もう一人の新藤信子女史も田口女史と同様で、清瀬の第1回生である。国立療養所箱根病院に勤務し、その後ずっと Stoke Mandeville 病院で PT として本書の著者 Miss Ida Bromley と共に15年以上も主任 PT として活躍し日本人でありながら多くの英国の患者を治療し絶大な信頼を得ている。現在は American Medical International の Chiltern Hospital の主任 PT として活躍しておられる。期せずして、脊髄損傷の PT のベテランの Miss Ida Bromley が本書をこの分野の指導書としてまとめられ、田口・新藤両女史が日本人に解り易く訳された。最近では下半身よりも四肢麻痺が段々と多くなってきている。本書は従来の指導書より以上に四肢麻痺者のリハビリテーションについて触れておられるのは貴重である。脊髄損傷の初療から、スポーツ、社会復帰まで包括的に述べられており、図解も多く実に解り易い本である。PT、OT を志す人は勿論、脊髄損傷のリハビリテーションをめざす若い医師諸君の必読の書であり、是非お勧めしたい。本書には故 Sir Guttman が、彼のライフワークとして心血を注いだ脊髄損傷リハビリテーションのフィロソフィーが脈々と息づいている。

(B5, 頁216, 図191, 写真8, 1982, ¥3,900, 千300, 医学書院刊)